



苫前町公民館図書室

苫前(とままえ)は、札幌に引っ越してから知った町です。

札幌より日本海側 170 キロほど、留萌市を越えて北上すると苫前町です。昭和の時代には留萌から幌延線で行くことができました。現在は高速バスで札幌から苫前まで2時間。海岸沿いを走る国道(通称オロロンライン)を走ります。

もう少し北上すると羽幌町。ここから焼尻島と天売島を結ぶ船が運行しています。

苫前町は風力発電事業が活発で、車中から風車を何機も見ることができます。強風で生活に困っていたので、風の事業化へ具体的に取り組んだのは平成になってから。

風車は常に右に回転し、風速 3m になると自動的に運転を開始し、風速 25m になると強制的に停止。風車は常にこの風速の幅で運転しています。

苫前町公民館図書室へ行くには沿岸のバスで下車して到着とはいきません。

苫前の上平(うえひら)という地区から 1 日6往復のバスを乗り換えて、約6キロ内陸に入り、古丹別(こたんべつ)という終点到図書室があります。ターミナルを下車するとすぐ目の前です。ちなみに古丹別地区の人口は 1000 人ほど。苫前町の人口は約 2600 人なので全体の半分も満たしていません。

道立図書館の相互貸借コーナーはもちろん地域資料、展示企画、住民参加型イベントなど積極的に行っています。お邪魔した時は子供達に本のオビを書いてもらい、それを展示するという企画を行っていました。ところが苫前町には書店がなく、留萌の三省堂まで行かないと本を手にすることができません。つまりオビが巻かれた本を手にする機会がないのです。そこでいくつか見本を図書館員が作成して呼びかけました。

SNS もコツコツと配信しています。

この図書室の地域資料のコーナーで注目すべきは、やはり釧嵐(くまあらし)事件でしょう。事件に関する資料などは積極的に保存しています。作家・吉村昭の『釧嵐』という歴史小説をご存知の方も多いかと思います。本書の表紙を見ただけで私はとても怖くなり、手に取ることもできずにいます。とにかく怖くて、怖くて、苫前に行くのも怖かったほどです。

ヒグマについて研究など行なっている「ヒグマの会」HP に事件の詳細が記載されています。

1915(大正4)年、体長2.7m、推定体重340キロという巨大なヒグマによって8名が亡くなるという事件です。

古丹別から18キロほど南に向かいます。いつの間にか道は砂利道になり、山の中に入っていきます。ゴールは三毛別(さんけべつ)地区(現在は苫前町三溪)です。あいにくバスは走っていないので、私は行くことができていません。行く・行かないよりも、怖くて、怖くて、どうしても行けません。Google map からストリートビューで追うことができます。私は眺めるだけで動悸します。

このような場所に人が住んでいたのかということにも驚きます。現在、「三毛別熊事件復元地」として再現された小屋と、実物大のヒグマのジオラマや、石碑を見ることができます。

苫前町郷土資料館にも事件の詳細について展示されています。

私の記憶が正しければ、現在は30年前とは比較にならないほど、ヒグマは町に出没しているでしょう。歴史上の出来事ではなく、熊嵐事件は今日の生活にも関連しています。当時なぜこの巨大クマは大暴れしたのでしょうか？私たちはヒグマとの共生のために、このような地域資料を理解する必要があります。

2024年7月訪問

加藤 重男